

# 「サツマイモ基腐病について」

## 「発生畑と未発生畑の交換耕作を促す事業支援」



日高正則 議員

**問** サツマイモ基腐病の発生状況をどのように考えているのか伺う。

**町長** 県南地区の被害が多く出ている。焼酎の製造はもとより、サツマイモを原料とする加工産業等に大きな影響を与えていると考える。

**問** 高鍋町のサツマイモ基腐病発生件数を伺う。

**農業政策課長** 令和3年度の状況は6戸で7圃

**問** 場で確認されている。県・町・JAとの連携はどのようになっているか伺う。

**農業政策課長** 県・西都児湯の各JA担当者、カンショ取扱事業者が集まって、発生状況情報の共有、注意事項の確認などを行い、感染防止に関する意思統一を図っている。

**問** 今後の対応について伺う。

**農業政策課長** 国が推奨している「基腐病菌を外部から持ち込まない」「圃場で増やさない」「圃場に残さない」この3つのポイントを実践することが重要と考えている。

**意見** 国は、2022年度予算に基腐病の抑制に向けた新事業を盛り込んでいます。被害畑と未発生畑を農家間で交換して栽培する支

援、畑の賃貸料や土壌分析に係る費用助成の予算計上をしています。以上の事をJA、農産物取引会社、生産農家に研修会を開催して頂きたい。

**問** 有機農業の促進について

**町長** 国の策定したみどりの食料システム戦略に基づき、国の方針、動向を見据えて、本町の有機農業を推進していく考えである。

**問** 本町の取組状況及び高鍋・木城有機農業推進協議会の事業内容を伺う。

**農業政策課長** 「地域の有機農業の実態把握と情報の提供」「研修会」「有機JAS認証取得の支援」「有機農産物の認知



サツマイモ基腐病の影響を受けた畑

# 「生分解マルチの補助事業は」

## 「継続して予算要求を行う」



永友良和 議員

**問** コロナ禍における農産物の価格の低下及び重油や農業資材の高騰など、農業をとりまく状況に対する町長の考えは。

**町長** 国や県が新たな対策を講じる場合の迅速な情報提供や、町の負担も必要になった場合は、積極的に取り組む。

**問** 重油高騰に対する対策は。

**農業政策課長** 燃油セーフティネット事業の公

募の際の周知を行って

**意見** 宮崎県経済連が打ち出した7億円の補助金の使い方を今後、注視していきたい。

**問** 生分解マルチに変更してのメリットは。

**農業政策課長** 労働力の削減や、次の作付けまでの時間短縮。

**問** 生分解マルチに対する町の補助事業への要望は。

**農業政策課長** 補助事業の継続と補助率のアップが多数である。

**問** 生分解マルチのアンケート結果を踏まえ、今後、この補助事業についての考えは。

**農業政策課長** 環境問題の視点からや作業の省力化等を考えると、その使用は非常に有効である

ため、今後も継続して予算要求を行いたい。

**問** 現時点での工事の進捗状況は。

**建設管理課長** 令和2年度末で30%、40%の進捗状況である。

**問** 完成予定は、いつごろになるのか。

**建設管理課長** 令和8年度を予定しているが、国の補助金次第では、延びることも考えられる。

**問** 完成した場合のメリットは。

**建設管理課長** 坂本坂の通行止めの心配がなくなることや、一定の道路幅員の確保や歩道設置など、安全性が確保される。また、津波発生時の避難路としても利用できる。



生分解マルチによるキャベツ定植

が発生している。

**問** 坂本坂については今後、地元の方々と意見交換会を行う必要があるのでは。

**町長** 新しい道路の使用の方等を共有したり、地元の方々の御意見を賜ることが絶対必要だと考える。

**意見** 駅前交差点から宝酒造に至る歩道において、街路樹除去後の植栽ます内に約20か所の段差が生じており、弱者にとっては危険な状況です。また、側溝蓋が無かったため、車椅子利用者等の転落事故も発生しています。この現状を把握していただき早急に対応してもらいたい。

※以上の外、宮田川の河川浄化についても質問しました。



大事に育てたい保安林

# 「高鍋駅舎について」

## 「駅舎本体の改修工事を行う」



黒木正建 議員

**問** 要望の多いエレベーターの設置について、今後の対応を伺う。

**町長** 当駅では設置に必要な十分なスペースが取れない。また、線路の使用方法からも技術的に困難との回答を受けている。一方、技術的課題が解決できたとしても、改修する場合には概

算で1億円以上の工事費が見込まれる。補助事業を活用するに当たっても、一日の乗降客数の基準が3000人以上となっている。

**問** 空き家の現状について

**町長** 高齢化が進むなかで空き家が増加しているが、町内の状況を伺う。

**建設管理課長** 315戸の空き家は使用可能な家屋である。特に、廃屋（危険な状態）は23戸あるが、多額の撤去費用を要するので進展しないのが現状である。今回、隣家に接触していた廃屋に対し、緊急処置として処分した事例

**問** 下永谷地区の松が広範囲に渡り被害を受けているが、保安林の面積、費用、薬剤散布について伺う。

**農業政策課長** 面積は約11ヘクタール、費用は1ヘクタール当り1700万円（植栽費用）を要し、5、6月に薬剤散布を実施している。今回の害虫の大量発生は把握してなかったとのことである。今後、管轄外ではあるが、連携を互いに保ち防除に努めていきたい。